

## 第 1 学年 道徳学習指導案

日 時 平成18年10月12日(木) 5校時  
学 級 1年C組(男19名 女14名 計33名)  
指導者 教諭 三 上 信 也

1 主題名 「広い心」内容項目 3 - (3) (人間の強さと気高さ、生きる喜び)

2 資料名 「二度と通らない旅人」 (出典 「東京書籍 明日をひらく1」 岩手県版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目3 - (3)は、「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。」こととある。人間は誰でも自分自身の心の弱さや醜さを隠し、そこから逃避しようとすることがあるだろう。しかし、そんな自分たちの姿をありのままに受け入れ、弱さや醜さを乗り越えようとするを通して、人間は強く、気高い存在に近づいていくとともに、人間として生きることへの喜びを見いだすことができるものだと考える。

中学生の時期は、人間が内にもつ弱さや醜さを感じるとともに、強さや気高さを併せてもっていることを理解することができるようになってくるが、その半面、自分に自信がなく、内向的になったり、他の人を妬み、恨み、羨ましく思ったりすることもある。

このような時期に、自分も含め、人間はだれでも弱さをもっていることを理解させ、さらに人間がもつ強さ、人間らしいよさを認め、自分たちを奮い立たせることで目指す生き方、誇りある生き方に近づけるということに気づかせていくことが大切である。そして、そのことから生きる喜びが見いだされるものだと考える。

(2) ねらいに関わる生徒の実態について

生徒たちは、中学校に入学してから半年が過ぎ、生活にも慣れ、明るく元気に、毎日を過ごしている。しかし、やや自己中心的な言動が一部に見られるようになってきており、それによって級友の真面目な姿勢を冷やかしたりする場面も見られるようになってきている。また、学習面や部活動での実力の差に悩み、自分に自信が持てなくなり劣等感にさいなまれたり、他人を妬んだり、羨ましく思っている生徒も多く見られる。

このような実態を踏まえ、本資料を通して、人間の持つ弱さ、醜さを受け止め、それを乗り越えていく強さと気高さを感じ取らせ、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いださせたい。

(3) 資料について

この資料は、小川未明原作の文学作品であり、葛藤資料である。

ひどい嵐の夜に、旅人が山中の一軒家を訪ねた。道に迷い、一晩泊めてほしいと頼むが、家の父親はそれを断り、さらに水を一杯だけいただきたいと頼む旅人に、病気の娘にさえ水をあげられないからと断る。最後に旅人は病気の娘に丸薬を残し去ってゆく。その丸薬を飲んだ娘の病気は治り、娘は幸せに暮らした。その姿を見て、父親は自分たちが旅人にした仕打ちを後悔するといった内容である。

父親の気持ちに共感させることで、旅人に対する仕打ち、それが結果的に自分たちの弱さ、醜さであったこと、それを後悔、反省し、改心していく姿から、人間の気高さや強さを捉えさせたい。

4 指導にあたって

本資料は長文のため、生徒の実態を考えると、短時間での読み取りが難しいと考え、事前に読ませることとする。その際、父親の行動に着目させるように指示を出しておく。

そして、導入でのあらすじ確認で、場面をわかりやすく捉えさせるために、イラストを掲示するなど、板書によって生徒が想起しやすいよう工夫する。

展開前段では、発問を父親に焦点をあてたものにしていくことで、価値がぶれることなく、父親の心情に共感させ、人間としての弱さ、気高さに迫るようにしていく。また、意図的な板書をする中で、心情の弱さ、強さといった本時の価値の構造化を図る。

展開後段では、生徒の今までの体験を振り返らせる場面を設定し、価値の一般化を図るとともに、心のノートの詩を読むことで、今後の生活に生かそうとする意欲をもたせていきたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

人間がもつ弱さや醜さに気づくとともに、その克服に努め、よりよく生きようとする態度を養う。

(2) 展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 (5分)	1 読み物資料「二度と通らない旅人」の時代背景、あらすじを確認する。		・イラストを掲示しながら、時代背景、登場人物、あらすじを確認する。
展開 (40分)	2 父や兄の行動について話し合う。  父はなぜ旅人を家に入れなかったのだろうか。  水はあげなかったが、薬はもらった父はどんな気持ちだったのか。  旅人が去った後、だまりこんで、火を見つめていた父と息子は何を考えていたのか。  なぜ、家族は「こののちもあることだが、ああした夜、とめてくれと頼んだ人があったら、快くとめてやらなければならぬ。」と思うようになったのか。  3 価値と照らし合わせて、自分を見つめさせる。 自分の弱さを克服し、よりよく生きるために、あなたができるのはどんなことですか。	・娘が病気だったから。 ・見知らぬ人で警戒したから。 ・病気の娘の世話だけでも大変で、入れる余裕がなかったから。  ・自分たちのことで精一杯だった。 ・娘を何とか助けたい。  ・旅人に悪いことをしてしまった。 ・旅人の広い心に対して、自分たちの狭い心への情けなさを感じていた。  ・旅人への恩返しのお気持ち。 ・自分たちも旅人のように、広い心、温かい心で接しようと思ったから。 ・旅人にした仕打ちを反省し、今自分たちにできることは何かと前向きに考えたから。  ・反省をし、自分にできることを考え、前向きに行動する。 ・失敗や弱気、気持ちに負けることなく、それを糧に強く生きていく。	・場面の状況を十分にイメージさせながら、発問を行うようにする。 ・父の心情を追う発問を行うとともに、そのことについてどう思うかという判断を問う補助発問も行う。 ・父の気持ちに共感させることで、事情はあるにせよ、人間のもつ自己中心な醜さに気付かせ、ありのままの人間性を理解させる。  ・父の行動が矛盾していることを強調させる発問をすることで、父親のもつ心の弱さを理解させる。 ・父が深く反省をし、悔んでいることを理解させる。 ・旅人の心と父の心を対比させることで、さらに人間の弱さに触れさせる。  ・前向きに広い心、温かい心で接しようとする家族の思いを理解させる。 ・ワークシートへの記入 ・資料への振り返りを行うことで、父の弱さを反省し、その克服をし、よりよく生きようとする本時の価値に迫る補助発問を行うようにする。  ・ワークシートへの記入 ・生徒の回答から、自分や他の人がお互いの強い気持ちを認め合うことで、よりよく生きていけること、そのことが喜びであることに気がつかせる。
終末 (5分)	4 心のノートP70の詩を読み、今日の授業を振り返る。		・教師が範読する。

6 評価

人間がもつ弱さや醜さに気づくとともに、その克服に努め、よりよく生きようとする気持ちが高まったか。

(ワークシートへの記入内容で評価)

7 資料分析図（二度と通らない旅人）

主な場面	主人公の意識	生徒の意識	意識の焦点化	主な発問
<ul style="list-style-type: none"> <li>嵐の中、病気に苦しんで水を求める娘。それを拒否する母と兄。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>娘が病気で母は心配している。</li> <li>娘が病気で父と兄は困り果て、どうしたものかと困惑している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>娘はかわいそう。</li> <li>父、兄は冷たいなあ。</li> <li>父、兄もどうしてもなくて、困り果てているのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父、兄が病気の娘に対する不安、嵐で気持ちに余裕がなくなっていることを押さえる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>突然の来訪者、旅人。土間でもよいから一晩泊めてほしいと哀願するが、厳しく拒否をする父、母、兄。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見ず知らずの訪問者の相手などをしたくない。</li> <li>早く去ってくれ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父、兄は冷酷だ。</li> <li>見ず知らずの人だから仕方がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況をとらえさせ、一方的に、冷酷だという意見にならない、共感できる視点をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父はなぜ旅人を家に入れなかったのだろうか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>せめて水を1杯と頼む旅人、それを拒否する父。薬ほしさに、戸を少し開け、もらう父。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>とにかく関わりたくない。</li> <li>娘をどうにか助けたいから、薬がほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父は自分勝手だ。</li> <li>余裕がないから仕方がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの都合しか考えない自己中心的な醜さに気付き、ありのままの人間性を理解させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水はあげなかったが、薬はもらった父はどんな気持ちだったのか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>薬をくれた旅人に対する自分たちの仕打ちに後悔し、反省する父、兄。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅人に対する仕打ちを顧みて、恥ずかしく思う。</li> <li>旅人を家に入れればよかった。</li> <li>良心に責められるような不快な気がした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷たい仕打ちをしたにも関わらず、薬をくれたので、自分たちのしたことに後悔した。</li> <li>早く、旅人を助けてあげればよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我にかえり、自分たちが旅人にした仕打ちに深く反省している心情を押さえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅人が去った後、だまりこんで、火を見つめていた父、息子は何を考えていたのか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>死に直面している娘が、旅人のくれた丸薬で急速に回復し、薄情であったことを後悔すると同時に今後、できるだけ親切にしようと思える父、母、兄。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが薄情であったことを後悔した。</li> <li>すべてがああ旅人のおかげ。再び訪ねてきたら、できるだけの親切をしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じようなことがあったら、早く泊めてやることで、あの夜の旅人への冷たい仕打ちへの償いになるだろうと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こののちもあることだが、ああした夜、とめてくれと頼んだ人があったら、早くとめてやらなければならぬ」という家族の言葉から、本時のねらう価値に迫る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、家族は「こののちもあることだが、ああした夜、とめてくれと頼んだ人があったら、早くとめてやらなければならぬ。」と思うようになったのか。</li> </ul>

二度と通らない旅人

父は旅人を家に入れなかった

・娘が病気だったから。

・見知らぬ人で警戒したから。

・病気の娘の世話だけでも大変で、入れる余裕がなかったから。

水はあげなかった

しかし

薬はもらった

・自分たちのことで精一杯だった。

・娘を何とか助けたい。

だまりこんで、火を見つめていた

・旅人に悪いことをしてしまった。

・旅人の広い心に対して、自分たちの狭い心への情けなさを感じていた。

「こののちもあることだが、ああした夜 とめてくれと頼んだ人があつたら、快くとめてやらなければならぬ。」

・旅人にした仕打ちを反省し、今自分たちにできることは何かと前向きに考えたから。

・旅人への恩返し気持ち。



Q なぜ、家族は「こののちもあることだが、ああした夜、とめてくれと頼んだ人があつたら、快くとめてやらなければならぬ。」と思うようになったのか。


Q 自分の弱さを克服し、よりよく生きるために、あなたができることはどんなことですか。
